

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 5 区分
 【発行日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【公開番号】特開 2006-88875 (P2006-88875A)
 【公開日】平成 18 年 4 月 6 日 (2006.4.6)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-014
 【出願番号】特願 2004-276777 (P2004-276777)
 【国際特許分類】

B 6 0 N 2/48 (2006.01)

A 4 7 C 7/38 (2006.01)

【 F I 】

B 6 0 N 2/48

A 4 7 C 7/38

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 27 日 (2007.8.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

本発明の実施例を図面により説明すると、1 は車両用シート、2 は車両用シート 1 の背凭シートであり、該背凭シート 2 は背凭フレーム 3 にクッション材 4 を取付け、クッション材 4 の外周を表皮部材 5 により包囲して構成している。

背凭シート 2 の上部にはヘッドレスト 6 を設ける。ヘッドレスト 6 の構成は任意であり、少なくとも着座者 T の頭部 H を支持する頭部支持部 7 と、前記背凭シート 2 に装着するためピラー 8 とを設けて構成している。

ヘッドレスト 6 のピラー 8 は左右方向のヘッドレスト取付杆 10 に設けたピラー支持部材 11 に高さ調節自在に取付ける。ピラー 8 とピラー支持部材 11 の構成は公知であり、図示は省略するが、ピラー支持部材 11 に設けた係合部材を所望高さに位置させたピラー 8 に形成した係合凹部に選択的に係合させて保持すればよい。

前記ヘッドレスト取付杆 10 の左右両側は、前記ヘッドレスト 6 を前後に移動させる上側リンク杆 15 の上部に固定する。上側リンク杆 15 の上下中間部は回転軸 16 により背凭フレーム 3 の側部フレーム 17 に回転自在に取付ける。上側リンク杆 15 の下部には、伝動部材 (ロッド) 20 の上部を軸 21 により取付ける。

18、19 はバネである。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

しかして、板状支持材 30 のプレート体 31 の後方には、プレート体 31 の前後位置を調節しうる前後調節機構 50 を設けているから、前後調節機構 50 により着座者 T の体格に合わせてプレート体 31 の前後位置を調節する。

前後調節機構 50 は、弾性を有する合成樹脂により横長板状の押出体 51 を、後突感知体 25 の前面に取付けて構成し、押出体 51 は、その中央部分の中間取付板部 52 の左右両側に、側方に至るに従い前側に位置する押出当接部 55 を形成し、該押出当接部 55 の

先端をプレート体 3 1 の後面に当接させ、左右の押出当接部 5 5 の内の何れか一方にはワイヤーケーブル 5 6 のインナーケーブル 5 7 のケーブル先端 5 7 A を係止し、左右の押出当接部 5 5 の内の何れか他方にはワイヤーケーブル 5 6 のアウターチューブ 5 8 のチューブ先端 5 8 a を係止しているから、ワイヤーケーブル 5 6 のインナーケーブル 5 7 を牽引すると、ケーブル先端 5 7 A とチューブ先端 5 8 a の間の距離が狭くなり、左右の押出当接部 5 5 の先端位置は元の位置より前方移動し、押出当接部 5 5 はプレート体 3 1 を前側に移動させる。

即ち、後突による慣性が生じていないときの後突感知体 2 5 はバネ 1 9 により常時前方に位置するように付勢されているから、後突感知体 2 5 は背凭フレーム 3 と同様に押出体 5 1 に対して固定部となり、前後調節機構 5 0 の押出体 5 1 の押出当接部 5 5 は後突感知体 2 5 に対して前方移動してプレート体 3 1 を前方移動させる。

【手続補正 3】

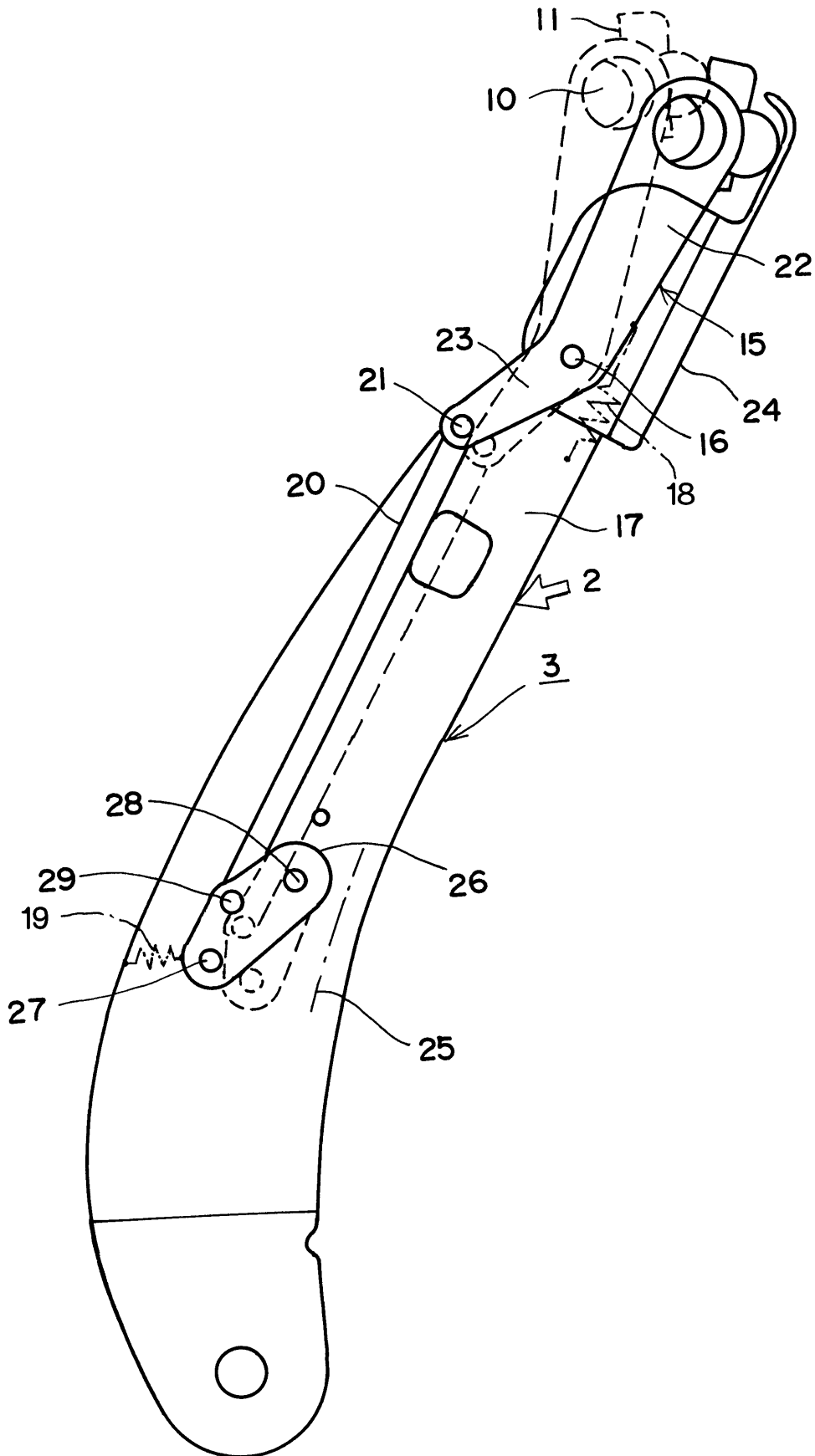
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 2 】



【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 3

